



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 11 月 9 日 発行 第 20 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

「産技研跡をスポーツ施設に」副区長がいきなり副知事に要請 産技研の地元住民や利用企業の声を聞かないのか

●「生活用品の商店街があれば」の声が多い

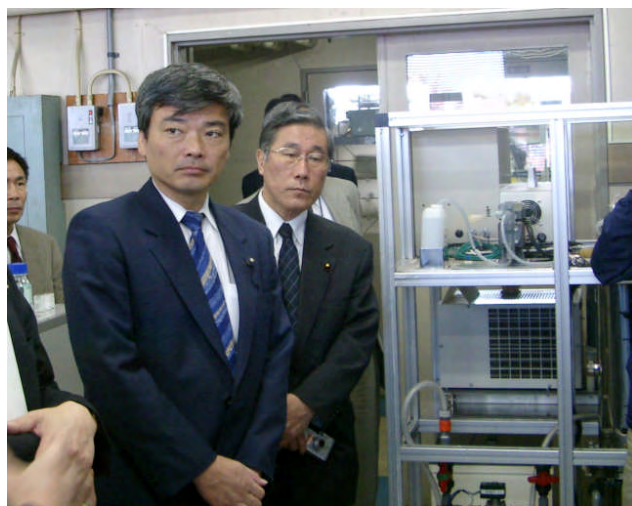
10月の北区議会区民生活委員会で、北区は突然、西が丘の「東京都産業技術センター」跡地は「野球場などグラウンドにしたい」と報告。すでに9月20日に山田副区長が北区体協とともに東京都の佐藤副知事に直接要望したことも判明しました。

都の産業技術センターは、今年春、臨海部に新規オープン予定でしたが、3・11震災の液状化で手間取り秋にずれ込みました。待ちかねたような今回の要請は、区のあせりを感じさせます。

地元の西が丘と板橋区清水町には新しい1千戸以上の公共住宅が立ち並び、高齢者からは「買い物が不便。王子行きのバス停と生活用品の商店街が欲しい」との声が多数です。跡地活用はこうした声を尊重すべきと考えます。

●新たなエコ産業の拠点にも貴重な場所

また旧産技研は、城北のものづくり中小企業になくなくてはならない存在で、板橋・北区ともに産業支援機能の代替策を都に求めています。板橋を含め産技研利用企業の声をきちんと汲み上げずに北区だけいきなり都に要望するのは拙速ではないでしょうか。



6年前、やまき区議らと産業技術センターを視察する

そねはじめ〔当時〕都議

中十条の野鳥公園で放射線測定にとりくむそねはじめ前都議



都営・UR団地・民有地の放射線対策を

■都は「安全は確保されている」との態度

23区で最後まで放射能測定と除染を渋っていた荒川区も10月末に示された国の基準と財政保障を受けて測定を始めました。民有地も区への通報があれば対応が可能になりつつあります。UR都市機構団地も高い濃度が発見され、URが地元と協議に入っています。

しかし都は6月の100か所（北区で2か所）の測定で安全は確認されたとして、その後は都立高校などの測定と対策を拒否しています。共産党区議団の自主測定で、桐ヶ丘都営団地でも毎時0・25μSvを超える測定値が出ており、都の公共用地についても区有地や民有地と同じく迅速な対応をさせる必要があります。

◆◆区議団主催の内部被曝問題学習会◆◆

*日時:11月23日13時半赤羽会館

*講師:矢ヶ崎克馬氏(琉球大名誉教授)

「子どもを放射線からまもろう」との区民の運動と、共産党議員団のねばり強いとりくみで、23区の半分ほどの区が学校給食などの内部被曝対策に取り組み始めています。ようやく北区でも検討が始まる可能性が出てきました。区議団は今年23日、第3回の放射線問題の学習講演会を開催します。ぜひお越しください。(写真は浮間地域後援会主催の原発学習会でのそねはじめ前都議)

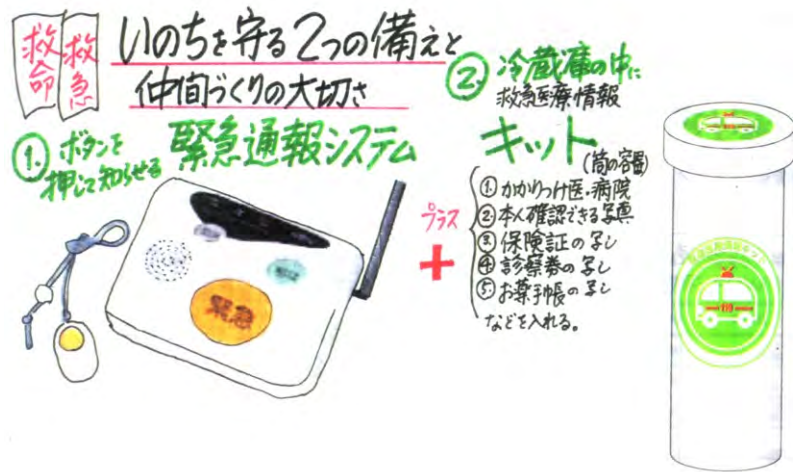


さがらとしこレポートより **高齢者の命を守る2つの備えを紹介**

十月末に開かれた桐ヶ丘健康友の会の「ふれあいトーク」対話集会で小豆沢病院の方から冷蔵庫に保管する「救急医療情報キット」が、さがら区議からはより簡単になった区の緊急通報システムが説明されました。(右下の図)

救急医療情報キットは、高齢者自身が、ご自分の持病やかかりつけ医、飲んでいる薬、保険証のコピーなどをプラスチックのケースに入れて、冷蔵庫に入れておくことで、万が一、自分が倒れたときにも救急隊員が健康状態をすぐ分かるようにするものです。

区の緊急通報システムは、いままで必要だったカギを預ける「協力員」が不要となり、警備会社がカギを預かって緊急時に駆けつけるシステムで、非課税者は引き続き無料で登録できます。



北区的全高齢者アンケート 回収率が7割越えた 全員回収をめざし、高齢者対策への活用を

8月に北区に住む78500人の65歳以上の高齢者全員に郵送された高齢者の生活実態アンケートは、項目の多さにもかかわらず、10月末で回収率が7割を越えたことが明らかにされました。区は75%以上をめざして現在、町目ごとに専門業者が訪問による回収にとりくんでいます。

日本共産党区議団は一部内容の改善を指摘しつつも、回収率を高め、今後の高齢者対策に全面的に生かすよう強く要望しています。ご協力をお願いします。

そねはじめ交友録<その十四>

高校時代、隅田川調査にとりくんだ親友 今は道路・橋梁の専門家に

1967年、小石川高校1年秋の「創作展」のクラス発表に私が「隅田川調査」を提案。古典の授業で「隅田川」が昔からの名で都鳥が舞っていたと知り、その川の実際に興味があったのです。クラスで班ごとに新河岸川の水源地から河口まで水を汲んできて水質調べをしましたが、何より川を観て来たクラス仲間の説明が生き生きして評判の発表でした。

3年の夏、どうしてもその後の隅田川が気になってひとりで沿岸を歩き、写真を撮って個人で創作展に発表しました。

この時、私が川周辺の事件や事故の記事を集めたり、「流し絵」に凝ったりしてまともな展示が出来ないのを見かねたKY君が、隅田川の水質改善に取り組んでいた当

時の革新都政の「シビルミニマム10か条」などを的確にまとめて飾りつけも手伝ってくれました。

その後、KY君は東大工学部に。1990年頃、雑誌「東京人」に私との文化祭の思い出と区議会で「リバーフロント計画」に係っているとの私の年賀状を紹介していました。KY君自身は景観学のパイオニアで、その後臨海部の道路橋設計で手腕を発揮したと聞きます。彼の著作を見ると、私が議会で浪費的公共事業として批判した「斜張橋」を日本の橋梁技術の成果として紹介していました。

私も彼も、あの炎天下で泥のような川の水を汲んだ記憶が人生に影響していることは間違いありません。いつか一緒にめざすべきまちづくりにとりくめる日がきつとくるよう願っています。

69年小石川の創作展で隅田川のその後を調べた発表会場で。手前の机にヤクルトのビンに入れた隅田川の水を置いたが誰も持っていかなかった。左端が後姿のKY君。

